平成 28 年度学校評価表

遊学館高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）
1	心身ともに健康な生徒の育成	1	明るく元気に進んで挨拶ができる	生徒指導部	部活動の生徒は進んで挨拶が出来ていたが、一般生徒の中で出来ない生徒がいる。	学校生活アンケートの結果 （全校生徒 11 月実施） A　90%以上 B　80%以上 C　70%以上 D　70%未満	B	おおむね80%以上の生徒は出来ていると回答。ただし、校門指導の中で自ら進んで挨拶しているかは疑問。
		2	正しい頭髪・服装で登校 ○校門指導を毎日実施 ○定期的な服装指導期間の設置 ○日常的な服装指導 ○月一度の頭髪指導	生徒指導部	・校門指導は、ほぼ毎日実施。 ・女子のスカート指導に課題が残った。 ・頭髪指導は良好だが、頭髪担当者に任せっきりの先生がいる。	指導カードの発行枚数を昨年度と比較 A　90%以下 B　95%以下 C　105%以下 D　105%超	D	28 年度より、指導カードを徹底したので増加したと思う。ただし、先生によっては口答だけの注意になり指導カードを発行していない場合がある。 頭髪指導は担当の先生を中心に指導し良好だった。
		3	愛校心を持って校内美化に取り組む	生徒指導部	清掃活動に率先して出来る生徒と出来ない生徒がいる。	学校生活アンケートの結果 （全校生徒 11 月実施） A　90%以上 B　80%以上 C　70%以上 D　70%未満	B	アンケート結果では、多くの生徒が清掃活動に率先しているとあるが、教員側からみると出来ていない生徒が多くいるように感じる。
		4	不注意による遅刻をなくす ○遅刻業後指導の徹底	生徒指導部	7%以下を達成できたのは、4 月と 7 月の 2 回であった。	遅刻者集計表で 7%以下の月数 A　6ヶ月以上 B　4ヶ月以上 C　3ヶ月以上 D　3ヶ月未満	D	結果的に7%を達成できたのは、4月と7月だけであった。しかしながら、1 月以外は昨年度よりも%が下がったので、来年度に期待したい。 業後指導はだいぶ定着してきた。
		5	交通マナー指導 ○自転車マナーの向上 ○バス及び電車利用時のマナーの向上	生徒指導部	毎月、実施したが相変わらず苦情が多かった。	学校生活アンケートの結果 （全校生徒 11 月実施） A　90%以上 B　80%以上 C　70%以上 D　70%未満	B	アンケートの結果は96%を超えるほど生徒の意識ではマナーを守っている。 しかしながら、一部の生徒がマナーが悪く、外部からの苦情があった。
2	楽しく明るい学校生活を送る	1	生徒自身の手で作り上げ、生徒全員が参加し、楽しむことができる体育祭・学園祭を行う	保健体育科 ＜体育祭＞	目標通り、体育祭当日は生徒中心で運営することができ、ほとんどの生徒が楽しく行っていた。課題はアナウンスが小さく聞こえづらい、大きすぎると苦情がくるという点である。	体育祭アンケートの結果 （全校生徒 6 月実施） A　4.3 点以上 B　3.6 点以上 C　3.0 点以上 D　3.0 点未満	A	アンケートの結果は肯定評価が多く、生徒は満足していたと思われる。今後は今年度 120 名を超える保護者が体育祭の見学に訪れており、観覧席の確保等の保護者対応を工夫していく必要がある。
				生徒会 ＜学園祭＞	限られたスペースの中ではあるが、生徒たちは楽しんでいた。本年度は更に体育館もなく、工夫が必要である。	学園祭アンケート結果 （全校生徒 9 月実施） A　90%以上 B　80%以上 C　70%以上 D　70%未満	B	体育館が工事中のため、学園祭初日の発表は金沢歌劇座にて実施した。舞台装置や発表内容も良いものがそろい、例年以上に盛り上がった。学校での模擬店も一般公開なしとしたが、トラブルもなく、生徒たちの満足度は高かった。
		2	卒業生アンケートを実施し、本校の満足度調査を行う	3 年学年会	昨年度実施していません。	卒業生アンケートの結果 （3 年生 2 月上旬実施） A　90%以上 B　80%以上 C　70%以上 D　70%未満	C	卒業生アンケートを 1 月 25 日に実施した。全体の肯定評価の平均は 79%であった。特に、3年間を通して遊学館でよかったという意見は 80%と高いものであった一方、周りの人に 遊学館への進学を勧めたいという意見は 60%にとどまっている。この結果を分析し、更に満足度の高いものとしたい。
		3	遊学講座に積極的に参加し、自分の可能性にチャレンジする	遊学講座運営委員会	全生徒を第2希望までで受講させ、一定の成果は出せたと思うが、不適応による講座変更が数名、年度末に時数不足が7名出た。	学校生活アンケートの結果 （全校生徒 11 月実施） A　90%以上 B　80%以上 C　70%以上 D　70%未満	A	学校生活アンケートの結果は肯定評価が 91%と良好だった。25 周年となった今年は、新たな開講場所として“街なかキャンパス”を開拓し、閉講式も充実した内容で行うことができた。次年度の開設講座も、近年になく増やすことができた。
		4	更新頻度や情報発信量を上げて、アクセス数を向上させる	ホームページ作成委員会	遊学館 Topics の更新頻度は上がったが、在校生・卒業生に向けた発信量は増やせなかった。アクセス数は前年比 138.84%と向上した。	アクセス数を昨年度と比較 A　110%以上 B　105%以上 C　95%以上 D　95%未満	D	アクセス数は昨年比 90.08%と減少した。（昨年は 138.84%　甲子園出場の影響？） イベントや定例記事の更新だけでなく、日々の教育活動（コース・授業等）の見せ方も工夫したい。

重点目標		具体的取組		主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）
3	確かな基礎学力の向上	1	年3回の研究授業 ○ALを用いた主体的・協働的な学びの研究を進める	教務部 教科会	研究授業は年2回実施しているが、個人の回数としては1回の実施となっている。ALを意識して特にグループワークが中心となった授業展開を進めていた。	研究授業の回数・参加人数 （参加人数は教科で異なる） A　4点以上 B　3点以上 C　2点以上 D　2点未満	B	ALを用いた研究は徐々に進んでいることが見られる。教科のとらわれず見学することが授業研究のヒントともなっている。参加人数は教科ごとに異なる。ルーブリック評価を今後検討する。
		2	年5回の互見授業週間 ○担任が互見授業を通して、クラスの授業中の雰囲気をつかむ	教務部 学年会	互見授業週間としては年2回実施した。授業評価表などを作らず、クラスの授業が見られる状況を作った。学年会での声かけも多くの先生方の授業への参観につながる。	互見授業週間一回の見学回数の平均 A　3回以上 B　2回以上 C　1回以上 D　1回未満	C	教員一人の見学回数平均値は1.4回。授業以外の業務が重なり授業見学に行けないなどの状況があるが、クラスの授業状況をつかむためにも見学することを今後も続ける。互見授業の実施週間時期を検討する。
		3	わかる授業、学力が身につく授業を展開	教務部	教科主任会議で各教科主任に同一学習集団での話し合いを促し、クラスの状況も考慮した授業が行えるように展開していくことを今後の課題とした。	授業アンケートの総合評価で、評価が高い教員の割合 （全校生徒7月実施） A　70%以上 B　60%以上 C　50%以上 D　50%未満	C	評価が高い割合は52%となったが、やや評価が高い割合を含めると87%となる。 基礎学力の定着方法は毎年各教科で検討していく。 アンケートの回数も検討する。
		4	授業態度の改善	教務部	指導カードの方向性を見直し、授業の現状が数字からも把握できるようにしていく。	授業態度指導カードの発行枚数を昨年度と比較 A　90%以下 B　95%以下 C　105%以下 D　105%超	D	指導カードの方向性を見直したことで発行される枚数は増加したが、より授業の状況が把握できるようになったことは、今後の授業改善の一歩を踏み出した。年度進行で浸透させていく。
		5	英語検定受験者の増加と資格取得	検定担当者	受験者113名 2級　32名 準2級　29名 3級　52名 合格者39名（取得率35%） 2級　2名 準2級　19名 3級　18名	英語検定受験者数を昨年度と比較 A　110%以上 B　105%以上 C　95%以上 D　95%未満	D	受験者数は年間で68名と減少した。 しかし、取得率は36%と前年を上回り、2級の合格者も4名出すことができた。 また、第1回から第3回までの2次試験の合格率100%を出すことができた。 次年度以降の課題として、受検者数を確保するために、英語部、遊学講座の英検クラスの受験を促す必要がある。
		6	第2回スタディーサポート結果の向上	教務部	学習に対する意識を変化させることが必要であるが、現状では、こまめに指導をしていかなければその変化すら生まれないと見える。	＜1年生＞ D層の割合を昨年度と比較 A　90%以下 B　95%以下 C　105%以下 D　105%超	D	昨年度の1年生と比較すると割合は増加したが、1回目と2回目を比較すると割合は減少している。進路意識の向上を促すことで割合をさらに減少させていきたい。
					進路を意識させるようにクラス担任から面談などを行うことで模試に対する取り組みが変わってくることが見られた。	＜2年生＞ D層の割合を昨年度と比較 A　90%以下 B　95%以下 C　105%以下 D　105%超	C	昨年度の2年生と比較すると割合は減少した。進路をより明確にすることで、3年生の1回目はより割合が減少するように計画を立てていく。
		7	朝学習の有効活用	1年学年会 2年学年会	1年学年会　マナトレでの学び直しや文章トレーニングでの小論文対策を実施 2年学年会 ワークシート通信（毎日新聞） 感想文（学校創立者伝記） 100字作文（10回） その他模試のための学習等	学校生活アンケートの結果 （1, 2年生10月実施） A　90%以上 B　80%以上 C　70%以上 D　70%点未満	B	1年学年会はマナトレで数学の学び直しに取り組んだ。学力差が大きかった。生徒のつまずいている箇所の把握ができなかったところが反省点である。
							A	2年学年会　遊学講座のふりかえり 読書　テスト勉強　小テスト　等を実施

重点目標		具体的取組		主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）
4	進路指導の充実、特に進学実績の向上	1	国公立大学合格実績	進路指導部	現役：金沢、福井、富山、山形 福井県立、鳥取環境 過年度：富山 以上7名	国公立大学合格者数 A　10 人以上 B　7 人以上 C　5 人以上 D　5 人未満	D	3 月 21 日現在で 4 名（うち進路指導部が関係したものは 3 名）。新 3 年生に関しては、学校での指導時間を増やし、クラス担任や進路指導部が主体となって引っ張っていきたい。
		2	金城大学及び金城大学短期大学部への進学	進路指導部 3 年学年会	昨年度、金城大学に進学した生徒は 20 名。生徒全体に対する進学者の割合は 4.5%であった。短期大学へ進学した生徒は 62 名。生徒全体に対する進学者の割合は 14%であった。	全校生徒に対する進学者の割合 ＜金城大学＞ A　6%以上 B　4%以上 C　3%以上 D　3%未満	B	社会福祉学部受験者が横ばいであったこと。また、医療健康学部や看護学部受験者が少ないことが B 評価(4.1%)となった要因ではないか。今後は、各学部（特に社会福祉学部）の魅力を伝える工夫と、生徒が勉強に向かうためのモチベーションを高める取り組みを行いたい。
					金城大学短期大学部　14.0% 金城大学　4.5%	＜金城大学短期大学部＞ A　16%以上 B　12%以上 C　8%以上 D　8%未満	A	各クラス担任からの生徒への働きかけが A 評価(16.8%)につながった大きな要因と考える。今後も高大連携はもちろん、先生方の協力を密にして進学者増加が目指したい。同時に、大学に対して魅力アップのための提案も行っていきたい。
		3	一般試験受験者数の増加	進路指導部 3 年学年会	2014 年度に一般試験を受験した生徒は 45 名で全体の 12.2%であった。2015 年度は 73 名で全体の 16.5%であった。	一般試験受験者の割合を昨年度と比較 A　110%以上 B　105%以上 C　95%以上 D　95%未満	C	一般試験を受験した生徒は 72 名で全体の 16.2%であり、昨年度とほぼ同じ割合となった。特進クラス以外から 4 年制大学の一般試験受験に向けて遅くまで頑張る生徒がおり、特進同様にそのような生徒への支援も充実させる必要性を感じた。
		4	就職指導の充実	進路指導部	37 名が学校紹介による就職を希望し、全員が内定した。	就職希望者（学校紹介）の決定率 A　100% B　96%以上 C　94%以上 D　94%未満	B	52 名が就職を希望し、3 月 18 日現在、1 名が未定である。今年度の特徴としては、2 期末から 3 学期になって進路変更で就職に切り替わった生徒が 7 名おり、その対応が大変であった。就職はスピードが結果を大きく左右する活動なので、担任との連携をさらに強化して指導していきたい。
5	部活動等の活性化	1	部活動加入率の向上 ○文化部の活性化 ○退部届を整備し、退部者を把握する	特別活動部	5月（1～3年生） 男子：63%　女子：41% 全体：51% 10月（1・2年生） 男子：62%　女子：21% 全体：52%	部活動加入率 A　70%以上 B　65%以上 C　60%以上 D　60%未満	D	・運動部と比較すると文化部の加入率が低い（特に男子）ので、今後重要課題として検討していく必要があると考えられる。 ・退部届を把握していくことは、今後も検討していく。
		2	県総体等（3 年生が出場する最後の大会）での成績上位をめざす	特別活動部	団体競技： 男女卓球部（県1位）・男女駅伝競走部（県1位）・バトン部（県1位）・女子バレー部・サッカー部・硬式野球部（ともに県ベスト4） 個人競技： 男女卓球部（県1位）・女子駅伝競走部（競歩：県1位）	学校対抗戦において、 優勝 10 点、準優勝 6 点 ベスト 4 入賞 4 点 ベスト 8 入賞 2 点　で換算 A　80 点以上 B　70 点以上 C　60 点以上 D　60 点未満	C	各部日頃の練習の成果を精一杯発揮した結果である。今後も目標を目指し、精進しながら努力していただきたいと思います。